

第 1 回 岡山市公共交通網形成協議会 議事録

日時：平成 30 年 5 月 21 日（月） 15:00～
場所：岡山市役所本庁舎 7 階会議室

■質疑の要旨（1/7）

組織名	質問・意見
西日本旅客鉄道株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来に対する課題は、利便性、サービスを企業経営として持続的に提供できるかどうかであり、そういう状態を築いていくことが大事であると考えている。 ・ 鉄道はバスと異なり、線路や橋りょうを自前で持っており、整備・管理するため、本数が多くても少なくても、固定的な費用が高く、多くの人手が必要となる。 ・ 岡山市の人口は横ばいであるが、岡山県下では人口減少が進んでおり、今後、利用が減少し、収益が先細りしていくことについて懸念を持っている。 ・ また、人手の確保が難しくなり、さらに安全面やバリアフリー等の設備面を中心に利用者や社会の要求の水準が高まっており、これらに対応する負担も必要となっている。 ・ 全国共通 I C カードの提供エリアの拡大や、駅のリニューアル、バリアフリー化の推進、情報提供の充実といった利用しやすい環境づくりを進め、利用を増やすべく努力を重ねている。 ・ サービス向上の一方で、機械化を進めていくなど、サービスレベルと経営の両立を図ろうとしている。 ・ また、岡山の魅力をエリア外で発信する活動をここ数年しており、今年度からは地域との連携も深めて、瀬戸内パレットプロジェクトをスタートし、交流人口の拡大、観光誘客にも力を注いでいる。 ・ ただ、事業者の自助努力だけでは限界もあり、吉備線では、負のスパイラルから脱却し、将来にわたって持続的な新しい都市交通を実現しようと岡山市、総社市と一緒に検討している。 ・ 交通は、都市の装置であり、まちづくりや都市の成長を支えるインフラであることから、まちづくりとセットで、岡山市をはじめ行政と連帯して取り組むとともに、交通事業者同士の連携も高めていきたい。 ・ また、人手の問題などからサービスの提供の仕方も見直す必要があり、利用者や市民の皆様から理解をいただく努力が必要である。

第1回 岡山市公共交通網形成協議会 議事録

日時：平成30年5月21日（月）15:00～

場所：岡山市役所本庁舎7階会議室

■質疑の要旨（2/7）

組織名	質問・意見
<p>岡山電気軌道 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回起こった個別の問題の協議は、この協議会でされるのか。 ⇒（事務局） <ul style="list-style-type: none"> ・新規路線の参入については、公共交通のあり方やどのように維持・発展させていくかについて協議する中で、必要であれば併せて議論していただきたい。 ・今回申し上げたい点が4つある。1点目は、利用者の利益は、「競争」から「路線網の維持」ということに切り替わってきたこと。2点目として、公共交通を再生するためには、法整備、財源確保、利用促進の3点セットが揃わないと、網形成計画の策定だけでは難しい。3点目は、日本には公共交通を維持するための思想がないため、公共交通のポリシーと夢が必要であるということ。4点目は、少子高齢化で人口が減少する地方の公共交通を維持するためには、交通連合に緩やかに進んでいかなければ、市民に寄り添う持続可能な地域公共交通の実現は難しいということ。 ・法整備については、道路運送法を早急に改正し、交通政策基本法と地域公共交通活性化再生法・改正法との整合性を図る必要があります。黒字路線を狙った場合のクリームスキミングの問題や、郊外路線のキロ当たり運賃の基準を中心部に適用することによる低運賃化など中心部の過当競争の是正、広域な自治体を含めた地域協議会において参入・休止・退出のあり方に関する慎重な審議を申請前に行うなどが肝要であると考えている。 ・財源確保については、人口減少や利用者の減少等で地方自治体も事業者も厳しい状況の中では、先進国が実施しているような交通目的税の創設が必要であると考えている。 ・利用促進については、環境、健康、都市の混雑の問題を解決していくために「乗って残そう公共交通国民運動」に取り組むことを提唱する。 ・公共交通網のポリシーとして、「人命への損害の回避」「社会的損失の回避」「持続可能な発展の実現」「交通利用の選択肢の確保」について議論が必要と考えている。 ・岡山市の公共交通については、「複数の交通手段を組み合わせた充実した公共交通網」「中心市街地内の回遊」「周辺地域も含む魅力ある岡山都市圏」「ICTを活用した高度な運行と情報提供」といった方向性で発展させていくべきではないかと考えている。

第1回 岡山市公共交通網形成協議会 議事録

日時：平成30年5月21日（月）15:00～

場所：岡山市役所本庁舎7階会議室

■質疑の要旨（3/7）

組織名	質問・意見
<p>岡山電気軌道 株式会社 (つづき)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の非常に少ないところについては、公有民託という方法で維持をしていかなければならない。そして、将来的には、この地域を維持するには交通連合ということに進むことを提案する。
<p>中鉄バス 株式会社 (中鉄北部バス 株式会社)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国道180号の路線の休止届を出している状態であり、乗務員不足というのが非常に大きな問題となっている。一昨年から急速に退職者が増え始め、補充のための求人募集をしても集まらないというのが現状である。 ・また、運転手の高齢化が深刻で、平均年齢が55歳以上となり、5年後には60歳となる。180号の路線の休止についても、乗務員の確保ができるのであれば、取り下げたいと思っている。 ・昭和40年代以降減少していた利用者数は、高齢化の進展もあり、3～4年前から増加傾向に転じた。リーマンショック以降、原油価格も安定して、経営的には好転する材料が増えてきたところであったが、2年前から燃料代が3割ほど上昇したため、これが収益に影響している。 ・今後もできることをやりながら、免許制度の規制緩和など、労働力の供給について良い制度ができるのを待っている状況である。
<p>宇野自動車 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃設定は、路線の採算性に直結する問題であるが、一方で、利用されない運賃水準では、公共交通が大事だということで行政資金が投入されても、ザルで抜けてしまう。 ・例えば日常的な通勤や通学で10～15キロ移動する場合に、往復で1000円を超える今の運賃水準が利用者から見て安い運賃と言えるのか。利用に耐えうる運賃とはどうなのかということをきっちり考えてみる必要がある。その上で、我々がどれだけのコストでやっていかなければならないのかを考えるべきではないか。 ・不採算路線を黒字路線で支える場合、黒字路線の利用者が負担する運賃をできるだけ軽減させることが大事である。その観点から、不採算路線の運賃を上げるため、路線ごとに簡易に運賃を設定できる制度にしてほしい。

第1回 岡山市公共交通網形成協議会 議事録

日時：平成30年5月21日（月）15:00～

場所：岡山市役所本庁舎7階会議室

■質疑の要旨（4/7）

組織名	質問・意見
<p>宇野自動車 株式会社 (つづき)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不採算路線の中には、ワンボックスで十分な路線、軽四で大丈夫な路線もある。そこに大きなバスを走らせる必要はない。不採算路線は、即撤退ではなくて、その実態をきっちり把握して対応を考えていく必要がある。 ・ 4月に赤磐で自動運転バスの試乗会を実施したところであり、今後、長期的に走らせて色々なデータを集めて、使えるかどうか検証していく必要がある。また、利用者に安心していただくために、車掌の役割をする人が必要になると考えている。そのため、人件費1人分の削減とはならないが、大型二種の経験を積んだ運転手の賃金と比べると安いので、収支も多少は改善すると考えている。それによって、増便や運行時間帯の拡大、運行の地域の拡大など、色々な試みができるのではないかと考えている。 ・ 今回の新規路線参入で問題となった運賃設定については、岡電バスは我々の二本松や三野の路線で35%値下げしているので、八晃運輸が両備バスの路線で35%値下げするというのはいりだと思っている。
<p>備北バス 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化する中で、また、乗務員不足の中で公共交通をどう守っていくか、これは一番の全国的に難しい問題であるが、利用者の方、バス事業者、行政が一つになって一から考えていきたい。バス協会でも、しっかりと議論していきたい。
<p>下津井電鉄 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30年前の瀬戸大橋線運行開始後、全路線が赤字であり、特定輸送や貸切、不動産収入などの内部補助で維持してきた。公共交通機関の使命を受けた会社として、グループ企業の力を結集して、市民の足をなんとか守っていきたいと考えている。 ・ ただ、現在最も深刻な問題は乗務員不足である。免許取得支援や就職説明会開催などの努力をしているが、早期の抜本的な解決が難しい。乗務員の高齢化も進んでおり、乗務員の確保ができないことで路線の縮小や減便ということが起こってくる可能性がある。宇野自動車から説明のあった自動運転に大きく期待するところである。

第1回 岡山市公共交通網形成協議会 議事録

日時：平成30年5月21日（月）15:00～

場所：岡山市役所本庁舎7階会議室

■質疑の要旨（5/7）

組織名	質問・意見
<p>下津井電鉄 株式会社 (つづき)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山駅周辺に特化した話として、道路交通渋滞が頻発しており、定時制の確保が困難な状況である。現在、バスロケーションシステムで遅延情報を提供しているが、抜本的な解決になっていない。朝夕のラッシュ時には、道路幅員の狭い場所では、バス自体が後続車を止める要因になるので、道路の拡幅とバス優先レーンの確保、バス停留所の切れ込みなど、道路渋滞を抑制する改善を市にお願いする。 ・倉敷市を跨ぐ路線もあるため、岡山市から県へ働きかけて、県全体の中で公共交通が働くことができる体制をつくってほしい。
<p>八晃運輸 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1点目として、めぐりんの岡山駅東口広場への乗り入れについて協議するため、おかやま都市交通戦略連携会議の速やかな開催をお願いする。めぐりん運行開始以来、利便性の向上のため、東口広場への乗り入れについて岡山市に約4万人分の嘆願書等を提出し、関係各所をお願いするなどしてきたが、実現には至っていない。東口広場のバス停留所のスペースには限りがあることは承知しているが、利用者の利便に資するものであるため、大局的見地からご理解をお願いしたい。 ・2点目として、新路線「益野線」の認可に関して、弊社は、法令に従って、適法かつ適正に認可申請を行い、法律で定められた要件を充足したからこそ国土交通省に認可されたものと理解している。競合他社が、益野線を排除するために一部の路線の廃止届提出やストライキの実施など、結果的に、市民に多大なる不安と動揺を与えてしまったことについて、弊社に責任はないこととはいえ、誠に残念である。弊社は、道路運送法の趣旨目的に沿い、益野線の運営を適正かつ合理的なものとし、より一層のサービス拡充に努め、利用者の利益の保護及び利便の増進を行っていく考えである。 ・3点目として、利用者の少ない赤字路線について、これを維持するため、今後、行政による運行支援の充実やインフラ整備などの議論が改めてなされることを望んでいる。その前提として、運行支援に関する既存の補助金制度について、支給基準や支給金額等の見直しを含め、利用者である市民に対して透明性を確保した上で議論されるべきであると考えている。

第1回 岡山市公共交通網形成協議会 議事録

日時：平成30年5月21日（月）15:00～

場所：岡山市役所本庁舎7階会議室

■質疑の要旨（6/7）

組織名	質問・意見
<p>八晃運輸 株式会社 (つづき)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・競合他社の「黒字路線で赤字路線を維持する」という主義には、利用者の利益保護、利便増進という道路運送法の趣旨からしても賛同できない。本協議会では、黒字路線の競争と赤字路線の維持の問題は切り離して、事業者本位ではなく、利用者の利益に資する方向で議論されるべきである。
<p>一般社団法人 岡山県タクシー 協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシー業界は、リーマンショック後の景気回復の波に乗れず、厳しい状況が続いている。また、乗務員の高齢化の問題もあり、この3月末時点で平均年齢は60.7歳となっている。若年乗務員の確保を努力しているものの、応募する人が少ないのが現状である。 ・津山圏域1市5町及び真庭市においては、2種免許等を取得する場合に一定の補助を受けられる支援制度が4月に創設された。また、美作市や美咲町においては、タクシー利用補助制度がある。 ・運転免許証返納者に対して愛カードを活用した割引等を実施しているが、経営が厳しい中で負担となっている。 ・このような補助制度等についても、協議会の中で検討していただきたい。 ・ユニバーサルデザインタクシーが、昨年よりトヨタ自動車より発売されたが、従来のセダン型タクシーに比べて価格が1.6倍となっており、購入が難しい。国からの補助は60万円あるが、自治体が協調補助を行う等の条件があり、本協議会において補助を協議してもらいたい。 ・タクシーは公共交通機関として認められている事業として認識してもらい、市民の利便性に役立てる方策を考えていただきたい。
<p>岡山市 連合町内会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東区の連合町内会長を集めて、両備バスの一部路線の廃止届提出について話をしたときに、「撤退してもらってよいのではないか」という意見が出た。 ・両備バスは、あまりにも利用者のことを考えていないと思う。 ・利用してもらえる交通網の形成は必要であり、東区の千種学区では、万富駅を中心としたデマンドタクシーを運行する計画があり、来年度から実施しようとしている。デマンドタクシーを走らせることで地域に人を呼び込み、また、利便性を高めていけば、もっと路線バスや鉄道を利用してもらえる。「やめる」と訴えるだけでは、問題は解決できない。

第1回 岡山市公共交通網形成協議会 議事録

日時：平成30年5月21日（月）15:00～

場所：岡山市役所本庁舎7階会議室

■質疑の要旨（7/7）

組織名	質問・意見
岡山市 連合町内会 (つづき)	<ul style="list-style-type: none">・西大寺線の問題は、事業者がビジネスでやっているということもあり、しょうがないという気持ちもあるが、市民・利用者の立場からすれば、高齢化社会で免許の返納もあり、買い物に行く足をどうするかなど、安心して利用できる公共交通の確保をお願いしたい。
岡山市 連合婦人会	<ul style="list-style-type: none">・公共交通機関は「便数が少ない」、「待ち時間が長い」、「時刻通りに来ない」といった意識を皆様持っていると思う。そういった意識を改革していくことが、利用者の増加につながるのではと思っている。
岡山市障害者 団体連合会	<ul style="list-style-type: none">・過去に障がい者の方と公共交通に乗り合わせた際に、不愉快な思いをした乗客の方や乗務員の方がいて、特に知的障害者の対応が難しかったという意見があった。障がい者への理解を深めるとともに、安心・安全と利便性の向上を図ってほしい。・県庁通りにあるような目の不自由な方、耳の不自由な方にも利用できるようなユニバーサルデザインの停留所が一つでも多く増えればよいと思う。郊外から中心部へ出かける公共交通利用者の増加を図るためには、停留所のデザインについても考えてもらえば、障がい者も利用しやすくなると思う。

